

サラリーマンから酪農

土地をいかした江崎さん

「われは酪農が好きで川原の牧場を引継ぎ、サラリーマンから酪農家になった。土地をいかして、牛を育て、乳を搾る。これが私の生きがいだ。」

江崎さん(45)は、サラリーマン時代に蓄積した資金で、川原の牧場を買取り、酪農に転じた。最初は苦労したが、徐々に牛の飼育に慣れ、現在は毎日牛を搾り、乳を加工して販売している。

頭使うて仕事しろ

仲良し青年グループが養豚

「養豚は頭を使わなければならない。仲良し青年グループが、協力して養豚事業に取り組んでいる。」

このグループは、地域の若者が中心となり、豚の飼育から肉の加工まで一貫して行っている。メンバーは互いに助け合い、技術を共有している。

協業化を進める人々

「協業化を進める人々。地域資源を有効活用し、生産性を向上させている。」

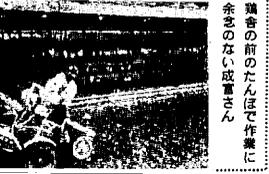
協業化により、生産者同士が協力し、共同で設備を整えたり、販路を開拓したりしている。これにより、コスト削減と品質向上が実現されている。

協業化への足がかり

四ッ葉会が研究に取組む

「四ッ葉会が研究に取組む。協業化の足がかりを築いている。」

四ッ葉会は、地域の農業関係者が組織し、協業化の推進に取り組んでいる。現在は、共同での品種改良や、生産技術の研究を行っている。



「共同養豚舎と大保さん。協業化の成果を収めている。」

共同養豚舎は、複数の生産者が協力して豚を飼育している。大保さんは、この共同体制で、より安定した生産を実現している。



「養豚事業の発展。協業化による生産性の向上が期待されている。」

養豚事業は、地域経済の活性化に貢献している。協業化により、生産効率が向上し、収益も安定している。

「農場大の発展。協業化による生産性の向上が期待されている。」

農場大は、協業化の推進に力を入れている。生産者同士の協力により、生産性が大幅に向上している。

36年のあしあと

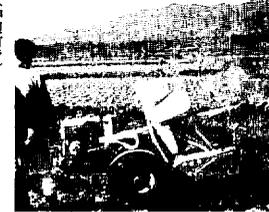
- 1月 ▲年度市営住宅の落成式(15日) ▲775人の成人式(16日) ▲里地区プールが落成(17日) ▲儀禮師、立石町に36年度市営住宅50戸を竣工(22日) ▲鶴岡町と田代町住宅を売却し市営住宅277戸にメーカーを取りつけ、市営青年学校「理実補習学校」開設▲かんきつ栽培講習会はじまる(月2回明年5月まで) ▲初めてのぶどう品評会ひらく(21日) ▲華厳経講義場の受け入れで臨時市議会(23日) ▲青果市場が臨時市議会(25日) ▲早大グループ卒業式(17日) ▲西鉄鳥栖駅舎が別館(30日)
- 2月 ▲牛原一善方線市道第2期工事竣工(8日) ▲15周年市川市市対抗戦で鳥栖(赤)チームに勝利(20日)
- 3月 ▲市道協会で初めてニシマスの水化に成功(3日) ▲12月から工事中の本町駅前 232メートルが竣工 ▲市道中環内体築造完成 ▲鳥栖増築校舎8教室、随中2教室が完成 ▲真木地区120ヘクタールの区道築造完成 ▲牛原一善方線市道幅 6.5メートル延長 420メートルが完成 ▲河内町新築敷一馬越地区の転作林道約4.8メートル(33.6メートル)が完成 ▲定例市議会ひらく
- 4月 12月から工事中の大和ハウス工業K九州工場が落成、創業(18日) ▲特殊学校中学校が鳥栖小中学校に開設(14日) ▲市道幅員7メートル完成 ▲鳥栖郵便局副都庁開設50周年(20日)
- 5月 ▲聯合経路KK(大阪)の鳥栖支店が落成 ▲市道中環に4.6ヘクタールのめんじん造成地と延長 790メートルの林道が完成 ▲五反三歩、今町、あすまや周辺市道の幅員に農付公衆電話架設
- 6月 ▲九州各県に小馬マヒが流行 消防や社団はじまる ▲吉川製機製作所(佐賀)の鳥栖市譲渡決まる ▲山の目元にニシマス養魚池ができる ▲定例市議会ひらく(28日~30日)
- 7月 ▲初の補助防犯事業はじまる ▲12月から工事中の市民集会所が落成 ▲財団法人本町会館落成 ▲恒例の転居入室(13日~15日) ▲東大入学生協賛授業(18日) ▲主要体育館移転新築工事竣工(28日)
- 8月 ▲市税が就労助成費を前年納税に切りかえ ▲観音寺500人が夏

省力施肥播種機

市で四台を配置

「省力施肥播種機。市で四台を配置し、農業生産の効率化を図っている。」

この機械は、省力化と施肥の効率化を実現している。市では、農業者への貸出や研修を通じて、普及を促進している。



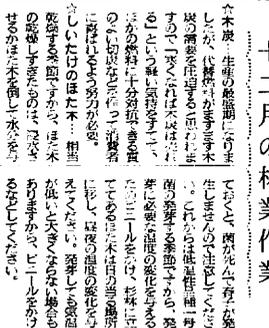
「省力施肥播種機の活用。農業生産の効率化が期待されている。」

この機械の活用により、農作業の負担が軽減され、生産性が向上している。市では、今後もこの機械の普及を支援していく。

十二月の林業作業

「十二月の林業作業。冬の林業作業の重要性が強調されている。」

冬は、林業作業の重要な時期である。伐木や植樹などの作業を行い、来年の春の成長を促している。



「十二月の林業作業の成果。冬の林業作業の重要性が強調されている。」

この時期の作業により、森林の整備が完了し、来年の春の成長が期待されている。市では、林業関係者への支援を行っている。



(石丸さん)



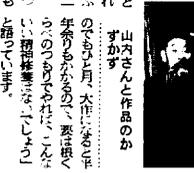
レジャー婦人の芸術

レジャーの風潮は多岐にわたるが、その中心は、レジャーの芸術である。



レジャー婦人の芸術

レジャーの芸術は、生活の一部として、生活の中に溶け込んでいく。



レジャー婦人の芸術

レジャーの芸術は、生活の一部として、生活の中に溶け込んでいく。

市内各教育施設にて、各種の芸術活動が行われている。

市内各教育施設にて、各種の芸術活動が行われている。

市内各教育施設にて、各種の芸術活動が行われている。

市内各教育施設にて、各種の芸術活動が行われている。

市内各教育施設にて、各種の芸術活動が行われている。

市内各教育施設にて、各種の芸術活動が行われている。

市展ひろく



市内各教育施設にて、各種の芸術活動が行われている。

児童扶養手当を支給

国民年金のない母子などに

児童扶養手当は、児童が 15 歳未満で、生計を共にする者が、国民年金に加入していない母子等に支給される。昭和 35 年 12 月 15 日以後、児童が 15 歳未満で、生計を共にする者が、国民年金に加入していない母子等に支給される。昭和 35 年 12 月 15 日以後、児童が 15 歳未満で、生計を共にする者が、国民年金に加入していない母子等に支給される。



児童扶養手当の支給を受ける母子等

1. 児童が 15 歳未満
2. 児童が 15 歳未満
3. 児童が 15 歳未満
4. 児童が 15 歳未満

大幅に改正された国民年金

今年四月にさかのぼる

国民年金法が改正され、今年四月にさかのぼって施行される。改正の内容は、国民年金の加入年齢を 15 歳から 20 歳に引き上げ、国民年金の保険料を軽減し、国民年金の給付額を増加させることである。

1. 国民年金の加入年齢を 15 歳から 20 歳に引き上げる
2. 国民年金の保険料を軽減する
3. 国民年金の給付額を増加させる

国民年金の加入年齢を 15 歳から 20 歳に引き上げることで、国民年金の加入者が減少し、国民年金の給付額が増加する。これは、国民年金の持続性を確保するための措置である。

雨水に注意

放射能

放射能に関する注意。放射能は、原子力発電所や原子爆弾の爆発によって発生し、空気や水を通じて広範囲に拡散する。放射能は、人体に有害な影響を及ぼす可能性があるため、注意が必要である。

放射能に関する注意。放射能は、原子力発電所や原子爆弾の爆発によって発生し、空気や水を通じて広範囲に拡散する。放射能は、人体に有害な影響を及ぼす可能性があるため、注意が必要である。

越冬昆虫は今のうちに

越冬昆虫は今のうちに。冬になると、多くの昆虫が越冬するため、農家は越冬昆虫の駆除に注意が必要である。越冬昆虫は、冬の間にも活動し、農作物に被害を及ぼす可能性がある。

正月の食品に注意

放射能

放射能に関する注意。放射能は、原子力発電所や原子爆弾の爆発によって発生し、空気や水を通じて広範囲に拡散する。放射能は、人体に有害な影響を及ぼす可能性があるため、注意が必要である。

正月の食品に注意。正月には、多くの食品が消費されるため、食品の品質と安全性に注意が必要である。食品の品質と安全性を確保するためには、食品の産地と生産方法を確認することが重要である。

国民年金に関する注意。国民年金は、国民の老後の生活を支えるための重要な制度である。国民年金の加入と給付に関する注意が必要である。

交通事故に関する注意。交通事故は、毎年多くの犠牲者を出している。交通事故を防止するためには、交通安全意識を高めることが重要である。

耳よりの話。耳よりの話は、身近な話題やニュースに関する情報である。耳よりの話を聴くことで、最新の情報を得ることができる。

歳末にふえる交通事故。歳末には、交通事故が増える傾向がある。交通事故を防止するためには、交通安全意識を高めることが重要である。

防ごう。防ごうは、さまざまな危険を回避するための注意である。防ごうを徹底することで、安全な生活を送ることができる。

電気事故を防ごう。電気事故は、毎年多くの犠牲者を出している。電気事故を防止するためには、電気製品の取り扱いに注意が必要である。

市営倉庫

気味利用 手軽に貯蔵

利子月金 長期利用

電気事故を防ごう

電気事故は、毎年多くの犠牲者を出している。電気事故を防止するためには、電気製品の取り扱いに注意が必要である。